



地域で作る“生きづらい人々の居場所”



# トビラ ファーム

---

市民公益活動促進補助金 実績報告  
2022年4月17日

NPO法人南大阪サポートネット

# 生きづらい人々の居場所 「トビラファーム」の必要性

- “生きづらさを抱える若者”が増えている
  - 
  - 社会の問題である
    - 
- 社会的排除ではなく地域の人々と一緒に
  - 健康で文化的な生活ができる
- 地域で支え合う社会的包摂環境を作る

# 生きづらい人の居場所 「トビラファーム」

- 対象は “ひきこもりなど、生きづらさを抱える若者”
- 活動内容は
- 農作業と主にTo-Villa（トビラ “生きづらさを抱える若者の居場所”）において当事者と支援者及び地域の人達との交流事業

# 2021年度実施事業

「食で繋がる」をテーマに  
実施した トビラファーム

- ①ファーム（大豆）
- ②味噌づくりワークショップ
- ③梅干しワークショップ
- ④スイーツワークショップ
- ⑤そば打ち体験ワークショップ
- ⑥月のまつり
- ⑦地域食堂 他

# ① ファーム事業

## 実施日と内容

4/10	タケノコ掘り
5/16・22	畑の耕運
6/13	大豆の植え付け
6/14~27	水やりと管理
7/19・9/17	草抜き
12/4	大豆の収穫
1/7・20・21	大豆の選別

延べ参加人数 47人



## ② 味噌づくりワークショップ

### 実施日と内容

2/26 大豆の煮込み

2/27 味噌の仕込み



延べ参加人数 7人



### ③ 梅干しづくりワークショップ

実施日と内容

6/20 梅の漬け込み

7/4 赤紫蘇の仕込み

延べ参加人数 17人



## ④ スイーツワークショップ



### 実施日と内容

- 6/12 パンケーキ
- 8/7 ホワイトチョコムース
- 10/9 かぼちゃのミニパイ
- 1/15 シュークリーム

延べ参加人数 25人



## ⑤ 月のまつり

今年度の取り組み

公的機関である公民館との連携  
地域団体とのセッション

NPO法人ワークレッシュ

現在不登校の子どもを持つ家族

ひきこもりの子どもを持つ家族の会 とびら



## 実施日と内容

事前打ち合わせと会議 9回

前日準備

11/20 月のまつり at 公民館前

ワークレッシュのブース

収穫物販売

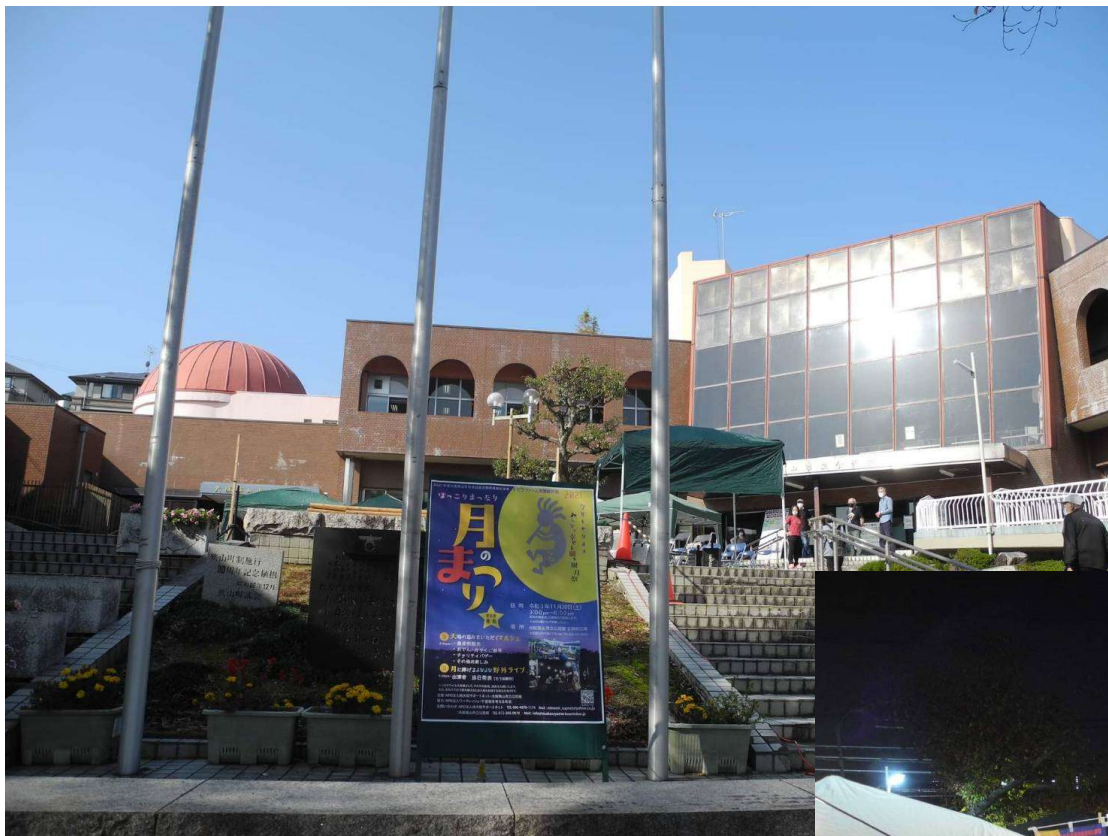
模擬店

音楽ライブ

11/21 後片付け

延べ参加人数 約200人





## ⑥ 地域食堂

実施日

7/13

9/7

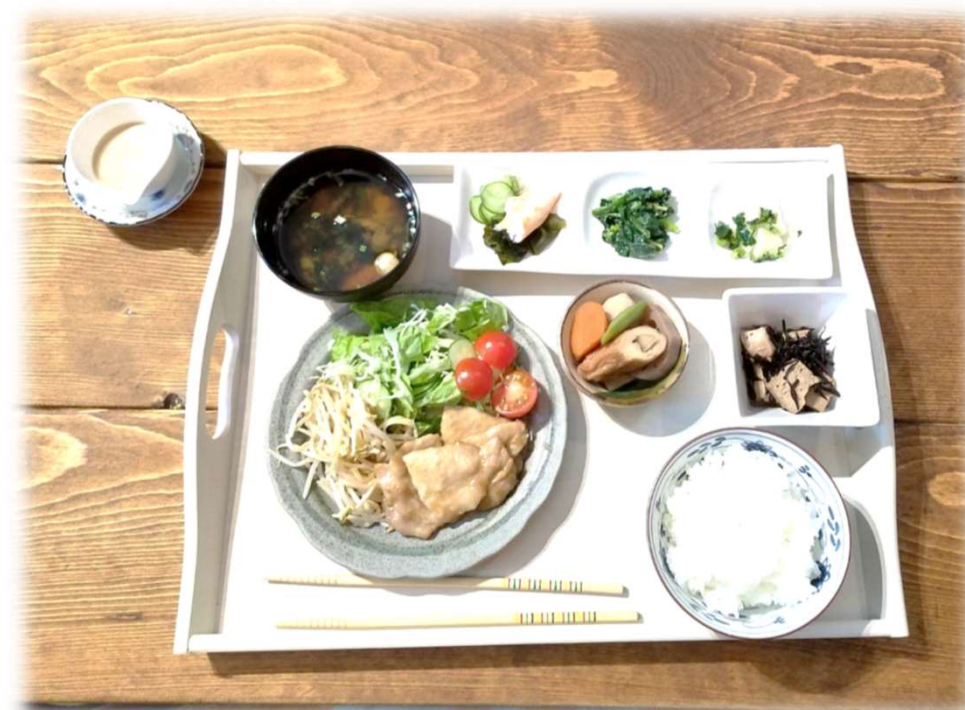
11/11

12/7

1/21

3/29

延べ参加人数 31人



# 新型コロナウイルス蔓延の中で

前年度に引き続き

緊急事態宣言・まん延防止等重点措置などが発令されている期間も長かった

その中でも状況に合わせて検討しながらの実施となった

対策としては

- ・マスク着用、手洗いや手指消毒、換気
- ・会場内人数制限
- ・参加者の連絡先の把握などを行った
- ・ホームページに団体としての取り組みについて掲示

# コロナ対策実施中

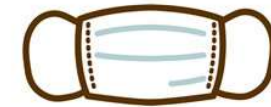
ホームページに掲載

昨年度の公開プレゼンテーションの時にご提案いただき作成・掲載しました

ありがとうございました



こまめな消毒をします



マスクを着用します



ソーシャルディスタンス  
をとります



人数を制限しています

立ち寄ってくださる皆様へ

居場所トピアでは常々お越しくくださる方々の、心身ともに安全な場づくりを心がけております。このような時だから更に必要とされる場所であると考え、出来る限り「場」は開き続ける所存です。新型コロナウイルス感染防止対策として、お越しくくださる皆様と一緒に主として上記の対策をおこなっております

これからも立ち寄ってくださった方々と一緒に「安心な場」づくりに取り組みたいと思っておりますので、各々のご判断でご参加くださいますようお願い申し上げます

NPO法人南大阪サポートネット

# コロナ禍の実施において

人がリアルで集まることに制限が

→ 居場所作りがテーマだけに (+\_+)

- 実施方法の変更が必要となった
- 多くの人に募集をかけにくく広報に困った
- 「食」を中心において実食する企画が困難だった
- 直前の変更や中止対応の判断が難しい
- 参加者を集めにくい
  - 参加費収入を得にくい
  - 金銭的に持ちだし部分が増える

# 成 果

- ・新たな参加者の中から活動への理解者が出てきた
- ・ダイレクトに情報提供が可能な人数が増えてきた
- ・自宅にひきこもりがちな人たちと地域の人たちが同席する機会が増えている
- ・「月のまつり」やイベント、各ワークショップを続けることで協力者が増えてきた
- ・2021年度は当事者の若者が入れ替わり少人数だが参加、また集う機会の定着がみられた

温かなつながりが増えてきた



# これから

- ・事業を続けることで新たな繋がりを増やす
- ・事業や活動をもっと多くの市民に知ってもらう
- ・多様性のある機会や居場所作りを目指す
- ・活動の自立に向けた検討を重ねる
- ・オンラインなど新しい形の居場所も検討する

出会った人たちと

お互いを大切にし合える繋がり方を

長く継続していける繋がり方を作る

# 質 問



令和3年度の活動を実施してみて気づいた

新たな課題はありましたか？

公民館等との連携・・・新たなつながり 金銭的自立との相反  
連携の難しさ

当事者との関り・・・ボランティアにも支援の学びを

事業を継続することでの効果はありましたか？

1年目に相談に来られた方が3年目になり連絡があった  
サポーターの数が 微増と定着